

- トヨタ自動車、「ランドクルーザーワゴン」等計2車種のエアバッグコントロールユニットに不具合があるとしてリコール 02年7月31日～06年6月7日に生産した計1679台  
エアバッグコントロールユニットの起動プログラムが不適切な為、不整地等でエンジン始動直後に段差乗り越え等をする時、横転判定センサのゼロ点がずれることがある。その為、車両が傾くだけで、横転と誤判定してカーテンシールドエアバッグ及びシートベルトプリテンションが作動する恐れがある。
- ホンダ、「フィット」「シビック」「インサイト」「ゼスト」「ストリーム」等計13車種のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール  
特定タイプの運転者席側SRSエアバッグのインフレーター(膨張装置)において、原因は判明していないが、エアバッグ展開時にインフレーター容器が破損する恐れがあることから、全車両、予防的措置として、当該インフレーターを交換する。 04年6月18日～15年3月11日に生産した計44万2997台
- 日野自動車、「日野ブルーリボンII」の乗降口(グライドスライド扉)に不具合があるとしてリコール 04年12月20日～15年11月12日に生産した2511台
- いすゞ自動車、「エルガ」等計5車種の乗降口(グライドスライド扉)に不具合があるとしてリコール 94年11月1日～16年1月8日に生産した計5327台  
路線バスのグライドスライド扉において、扉開閉用エアシリンダーのブラケットと扉を開閉させる回転軸の固定方法が不適切な為、固定しているスプリングピンに亀裂が発生するものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、スプリングピンが折損し、最悪の場合、スプリングピンが2本とも折れ、走行中に扉が開いたり、運転者席からの扉の開閉操作ができなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、「RAV4」「ヴァンガード」の後部座席金属フレームに不具合があるとしてリコール 05年10月26日～16年1月30日に生産した計17万6819台  
後部座席の金属製フレームの形状が不適切な為、事故時の衝撃により当該フレームとシートベルトが干渉することがある。その為、シートベルトが損傷して乗員拘束できなくなる恐れ。
- 三菱自動車、「デリカ」等計9車種のターン/ライトスイッチに不具合があるとしてリコール 05年9月22日～14年10月1日に生産した37万1518台  
又、車両は特定できないが、05年11月1日～14年9月24日に交換修理部品として出荷された745個も対象。
- ミツビシモーターズ タイランド、「トライトン」のターン/ライトスイッチに不具合があるとしてリコール 06年8月30日～10年4月28日に生産した1400台  
ターン/ライトスイッチが取付剛性不足の為、スイッチ操作によりコネクターの端子が摩耗し、その摩耗層が酸化して絶縁物が生成されるものがある。その為、そのまま使用を続けると、絶縁物が端子の間にかみ込み、導通不良となり、ヘッドライトや車幅灯、フォグランプ、テールランプ、ナンバープレートランプ、ウインカーなどがつかなくなる恐れがある。
- 日産自動車、緊急用自動車「パラメディック」、いすゞOEM「スーパーメディックII」等計4車種のハーネスに不具合があるとしてリコール 98年8月6日～15年11月16日に生産した1946台  
運転者席ステップ内に配索されているハーネスの防水処理が不適切な為、靴底等に付着した雪などにより車室内に入った水がステップ部に流れてハーネスの保護カバー内に溜まり、浸水した当該ハーネスのジョイント部が腐食して断線することがある。その為、そのまま使用を続けると、最悪の場合、エンジンが始動できなくなる恐れがある。
- マツダ、三菱自動車、タカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール  
マツダ「ボンゴ」「ボンゴブローニイ」「タイタン」「アテンザ」、日産「バネット」、三菱「デリカ」の06年4月3日～14年12月27日に生産した20万8037台、  
三菱自動車「デリカ」「パジェロ」の06年8月23日～14年7月31日に生産した15万2678台。両社合わせて36万0715台。  
特定の運転席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、原因は判明していないが、エアバッグ展開時にインフレーター内圧で容器が破損する恐れがある。
- マツダ、「タイタン」のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール 04年2月23日～同年7月7日に生産した1540台  
運転者席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、部品メーカーで市場回収品を調査した結果、異常展開に繋がる恐れがあるインフレーター容器内圧の異常出力が認められた。この為、原因は判明していないが、一定の期間までに製造した同タイプにインフレーターについて、予防的措置として当該インフレーターを代替品に交換する。
- マツダ、「ボンゴフレンディ」、フォード「フリーダ」のパワーウィンドウスイッチに不具合があるとしてリコール 95年4月19日～02年5月7日に生産した6万2399台  
運転席側パワーウィンドウスイッチの内部構造が不適切な為、多量の水分がスイッチ内部に侵入すると、内部基板に異常電流が流れることがある。その為、当該部位が発熱、溶損し、最悪の場合、発火する恐れがある。
- ルノー・ジャポン、ルノー「ルテーシア」「ルテーシア ルノースポール」のエアスポイラーに不具合があるとしてリコール 13年4月17日～15年10月21日に生産した1897台  
車両後部に取り付けられているエアスポイラーにおいて、製造時にエアスポイラー表面と土台との接着が不均一なものがある。その為、そのまま使用を続けると、接着部が剥がれ、エアスポイラーの表面が脱落する恐れがある。
- ルノー・ジャポン、ルノー「ルテーシア」「キャプチャー」の燃料ホースに不具合があるとしてリコール 13年4月11日～15年2月24日に生産した3827台  
燃料ホースの長さが不適切な為、走行中の振動により燃料ホースとエンジンマウントが干渉するものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、燃料ホースが摩耗し、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。
- 富士重工業、スバル「インプレッサ」のスタータに不具合があるとしてリコール 14年11月11日～15年6月17日に生産した1万6550台  
エンジンコントロールユニットの制御プログラムが不適切な為、エンジン始動時のイグニッションスイッチ操作と同時に、シフトをPからNレンジに操作すると、スタータピニオンギヤがトルクコンバータのリングギヤに強勘合することがある。その為、勘合時の衝撃により当該ピニオンギヤが損傷して、エンジン始動時に異音が発生し、最悪の場合、エンジンが始動できなくなる恐れ。